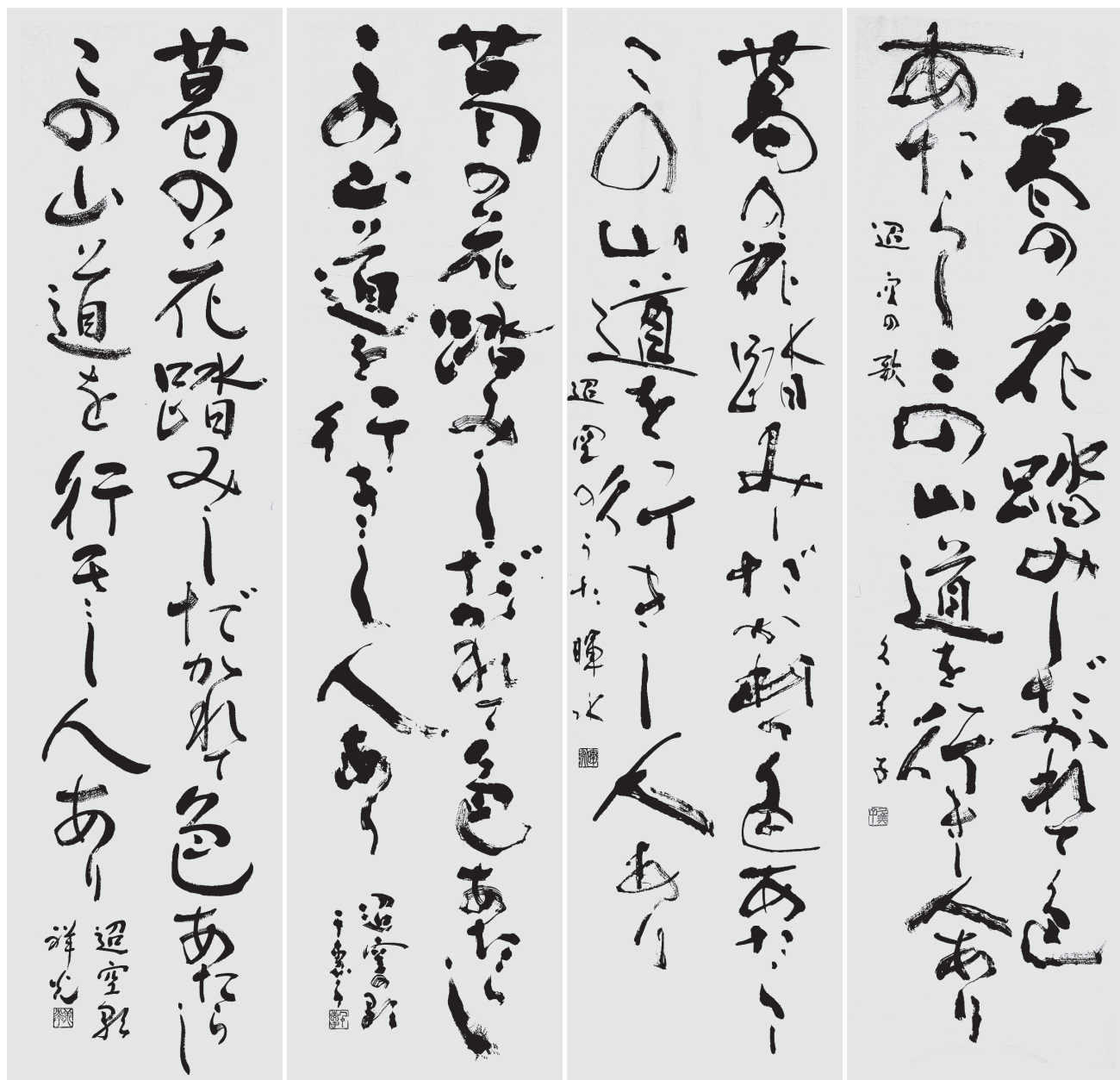


高野清玄先生選評



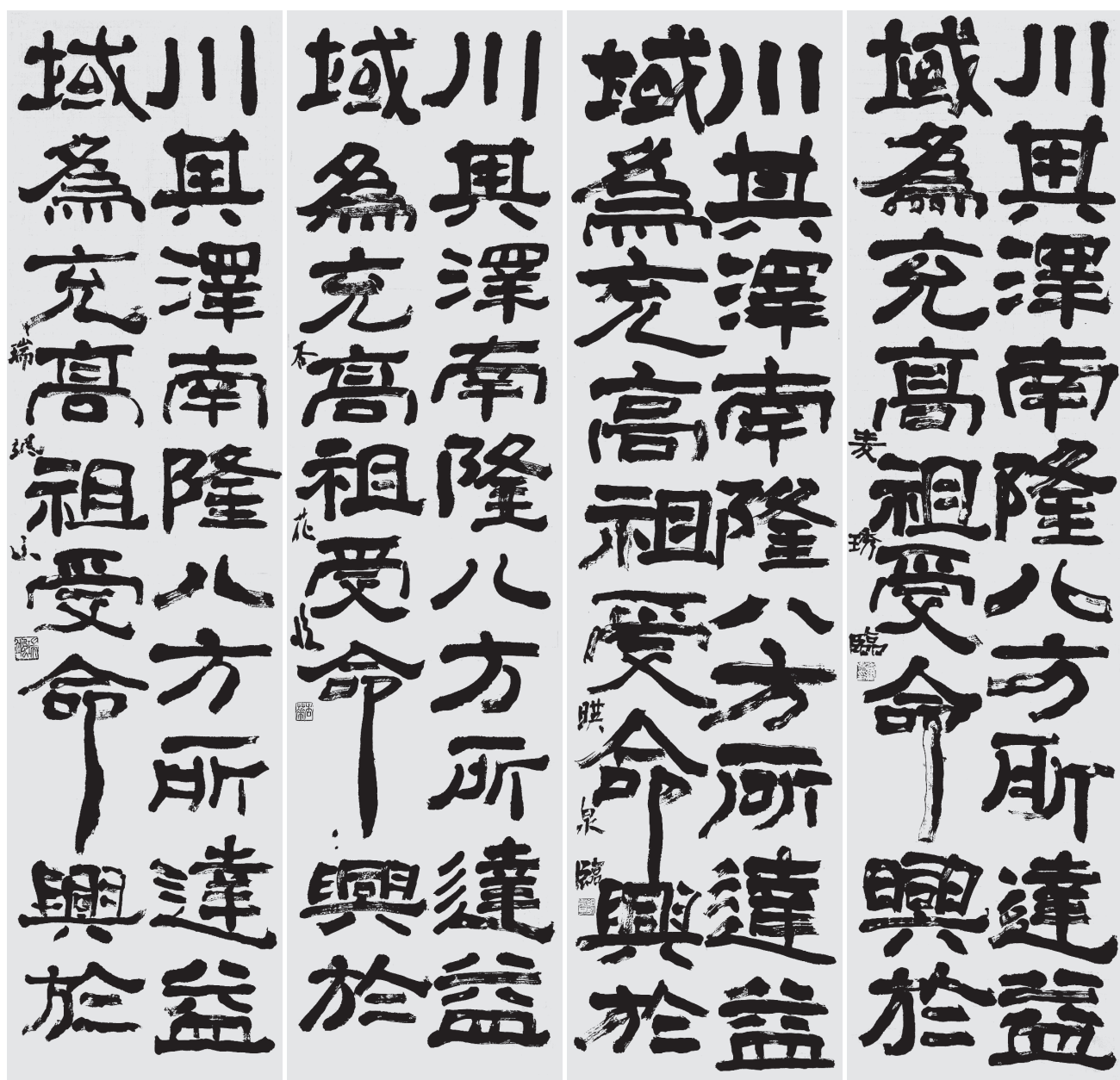
前 久美子 推選
運筆にやや迪々しさがあるものの素材を参考と違った所で切り二行目に「あたらし」を大胆な渴筆で置いてこれが成功した。「葛」や「山」の潤筆が活きている。

桑子 暉 永 推選
紙面の白が生かされ作品が明るい。力む事なく筆毛の弾力が上手く使われて細線が良い。急がず一字一字の空間を考えて配置配字された紙面構成も見事である。

熊本 千恵子 推選
筆毛はやや開かれた状態での線が温もりを感じさせる表現となり、なんとなくホッとさせる雰囲気を出している。二行目の行頭は墨継ぎせず渴筆で書きたい。

木村 祥光 推選
金子鷗亭先生の参考作品をよく観察し理解して表現されて佳。細めの線で大胆な変化のない書風は難しいが軽いリズムに乗り爽やか。落款の行間やや広過ぎた。

江幡太瓏先生選評



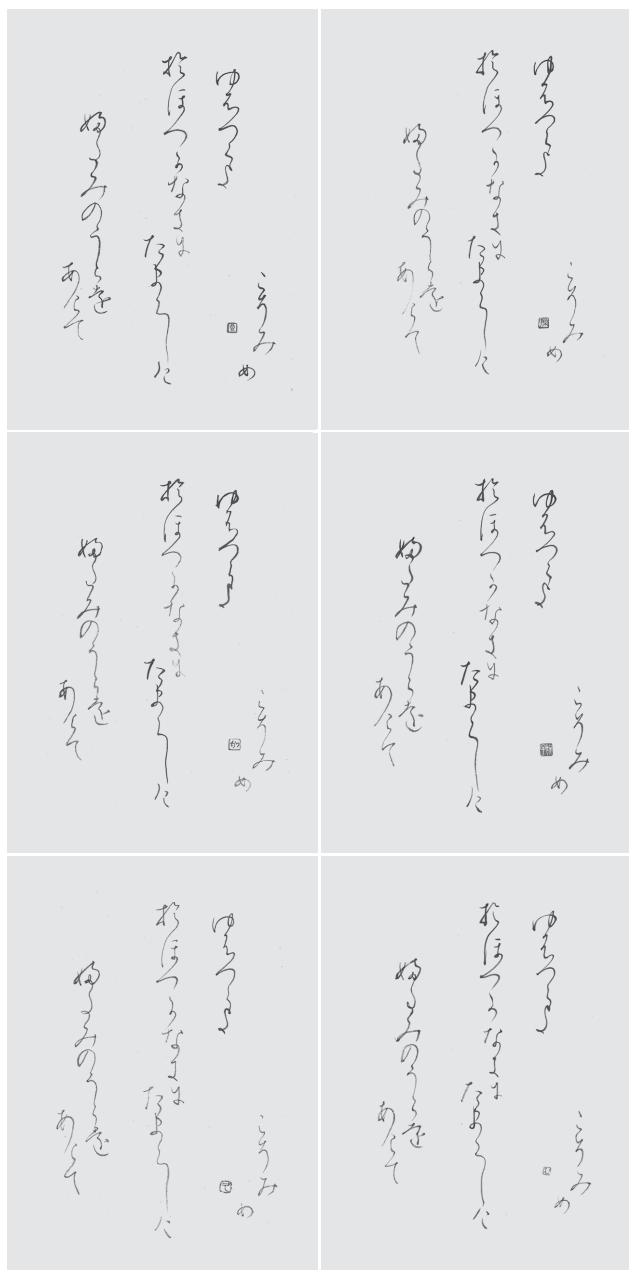
鯨井麦琇 推選
程良い墨量太き、特に「八方」の渴筆が際立つ。気宇の充実メリハリ抜群だ。香織改め麦琇会山先生につけて頂いたとか良かったね。ビール大好きな麦琇さんに心より乾杯！

細永暎泉 推選
滲みのせいか重なった線あるものの呼吸深く長く、懐広く味わい深い作品となりました。残念なのは落款低すぎましたね。「高祖」の間からでしょうね。

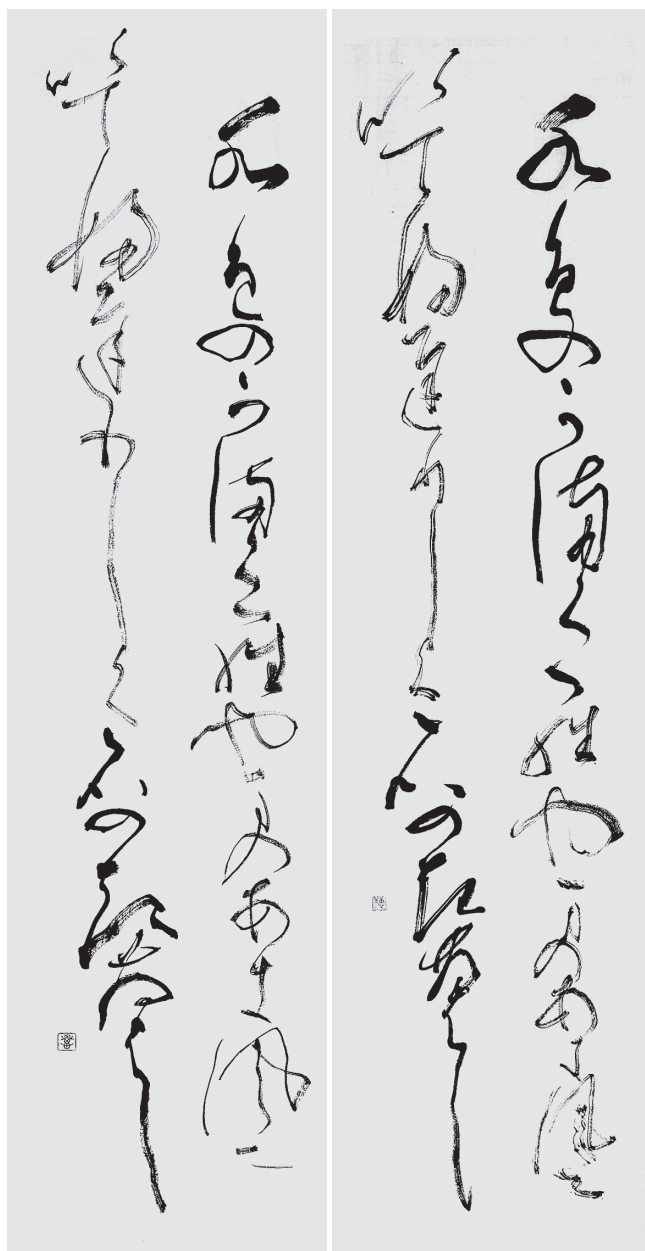
安川杏花 推選
やや細く、中心部寂しくなったが、上部、下部の充実落ち着きがあり深い線見事です。画数の少ない字は大きくしないで太くするのが基本でしょうか。

丸山瑞颯 推選
握りの構え角度良く大きくゆったりとし、懐が広く白が美しい。二行目の様な潤渴が一行目にも欲しかったかな。一般的に三、四字で渴筆。行の字数で変わります。

露崎桂子先生選評



赤富士北祭先生選評



今井良子 八段
大らかな運筆で、書くことの楽しさが伝わってくる作品です。行の方向に留意して、行にゆらぎが出ると、一段上の作となるでしょう。

栗本 薫 準七
規定手本をよく捉えています。字形も美しく、ちらしも見事です。もっと自信を持って運筆しましょう。印は、やや離すと落ちつきます。

仲山栄子 師範
字形、連綿の巧妙さを良く捉え、原帖の格調の高さが感じられます。ちらしも紙面にびつたりとはまり、いつまでも見ていたいです。

宮内悦子 師範
原帖の特徴を良く捉え、潤渾の変化が自然で美しい作。ややじっくりと運筆すると、更に深みのある作になるでしょう。印は、少し小さめが可。

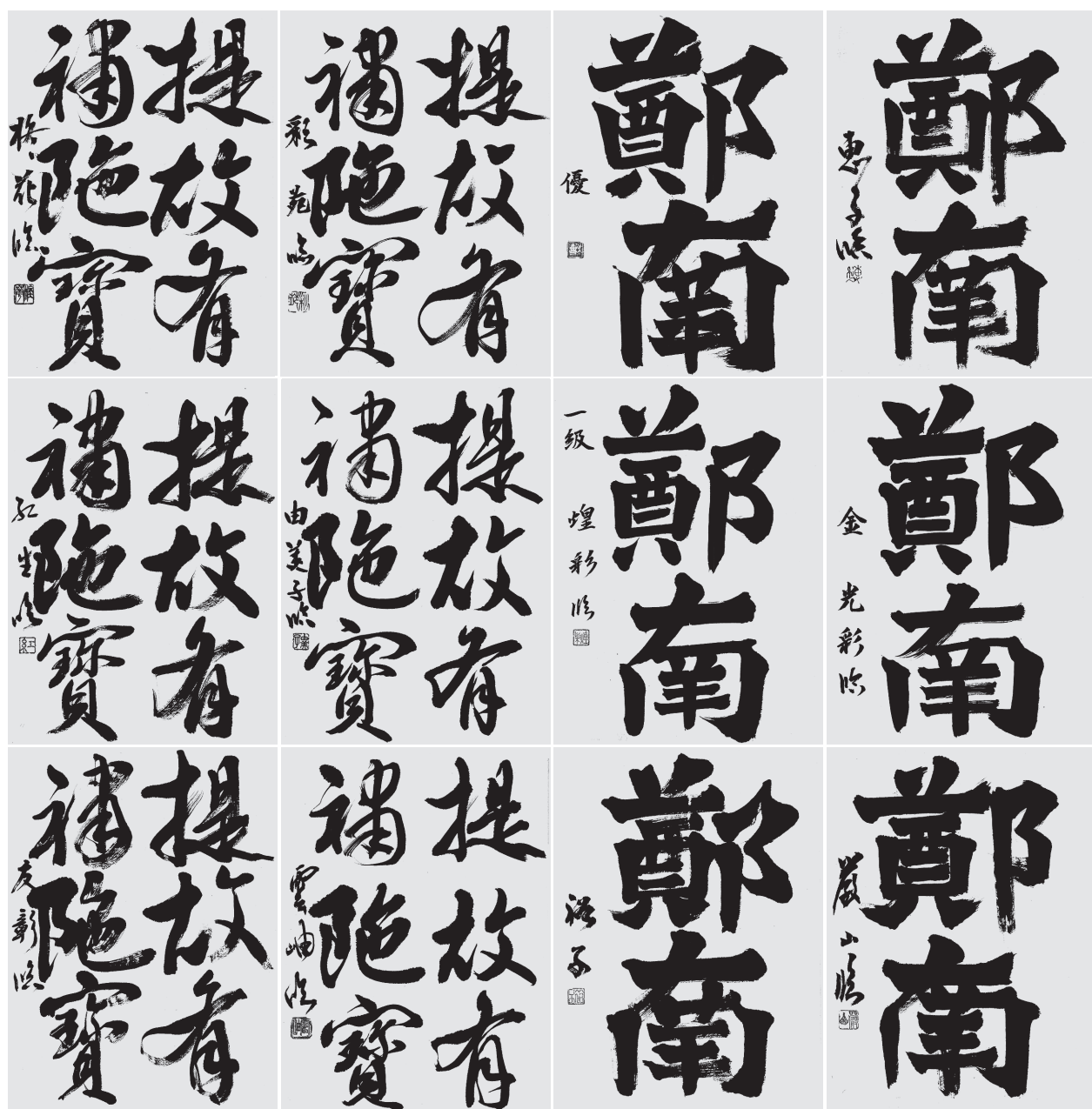
福井むつみ 準師
字形良く、筆が良く動き、勢いのある作です。緩急のリズムを取り入れて、原帖の美しい潤渾の変化が出ると更に趣きある作になるでしょう。

根岸久美子 五段
すっきりとした爽やかな線条です。気持ち良く筆が動いています。更に墨濃さに工夫が見られると、印象深い作品になるでしょう。

金子 恵 推選
静かな書き出しから次第に盛り上がり、かな条幅の定石をしっかりとおさえています。二行の響きあいも見事で余白も含めて美しい作品に仕上がりました。

木口 恵美子 推選
おらかな筆運びでゆったりとした時間の流れが魅力的です。筆の開閉も自然で、やや墨をひく用紙の選択もよく、深い線の味わいを表現しています。

桜井辰雄先生選評



堀井恵子 師範

規定手本を参考にしながらも原帖から特徴を捉え直し、鍛えられた線質で起筆から収筆、落款まで、緊張感を含ませながら白と黒のバランスを生かし切っている。遊び心も加え秀抜。

熊澤 優 初段

多少の迷い線・躊躇したような運筆が散見され、粗削りとも見えるが、内に留まらない伸びやかな線が随所に見られ作品を大きく見せている。今後の学書の結果が期待される。

豊田彩苑 師範

筆の握りも柔らかく、筆者本人が再現した作かと思わせるほどの細かな筆の動きも無理なく美しく表現された秀抜作品。露鋒が邪魔をしていないのは、墨・筆・紙を熟知した賜物か。

松原松花 四段

真摯に法帖に向き合い、たつぷりとした肉厚の線が躍動的な作品にした。沈み込む線質だが重さを感じさせないのは、遅速を交えた運筆と効果的な渴筆での表現を演出できる技術力。

金 光彩 四段

柔らかな筆を無理なく巧みに使いこなし、密度のある造形に隸意を含ませて重量感のある作品に仕上げた。軽快な運筆や転折にも工夫の跡も見られ正に鄭長猷造像記然とした秀作。

杉浦煌彩 一級

他の「造像記」臨書作品とは違った捉え方とも感じるが、素直な暖かい線質が細かな部分にまで行き届き、規定手本に自身の解釈を加え端正で上品な秀作。落款にひと工夫したい。

中村由美子 八段

直線の効いた滑らかな運筆がスクツとした凛々しさをもつひとつの文字に漂わせている。肉厚だが軽やかな潤筆の偏が適度に配置され、作品のアクセントとして引き立たせている。

桜庭紅生 準三

運腕大きく縦横に伸び伸びと筆が運ばれ、紙面をはみ出さんばかりの勢いを見せる一方で、どしりと重心低く腰の据わった字形が作品作りの上手さ、揺るぎ無さを見せてくる秀作。

長野厳山 二段

グイグイと淀みなく紙背どころか岩をも穿つ筆致でありながら、重さを感じさせない軽快な線が紙面を躍動して背筋の伸びた凛々しい作品だ。日頃からの学書の成果が迸っている。

岡島裕子 四級

上級者の作品かと思ふうほどの鍛錬された秀逸作品。強弱、太細、潤渇、遅速がコントロールされた運筆と、本文だけでなく落款の位置までも計算されたかのような余白が美しい。

内山雲岫 準八

紙面の定位位置を崩さずにコンパクトに収めたが、各々の文字に窮屈さや小ささを感じさせない。否、躍動感・懐の大きさをも感じさせる表現は流石に学書に長けた上級者の臨書力。

山崎友彰 一級

大柄な字形を縦長に揃えつつ、原帖から滲み出てきた曲線の香りを巧みに直線に纏わせながら、隣接余白を巧みに利用して字形を微調整するなど、心憎いほど作品作りに長けている。